

富里市教育委員会点検及び評価 (令和４年３月末時点)

＜目 次＞

１．教育委員会の点検及び評価について	１
２．令和３年度富里市教育委員の活動状況	２
３．令和３年度とみさと教育プランに基づく令和３年度事業目標と評価 概 要	３
（１）学校教育の充実	４
（２）生涯学習の推進	２７
（３）文化・スポーツの振興	３４
４．講 評	４３

1. 教育委員会の点検及び評価について

【目 的】

教育委員会は、首長から独立した合議制の行政機関として、自らが決定する教育行政に関する基本方針のもと、教育長及び事務局が広範かつ専門的な教育行政事務を執行するものです。

このため、基本方針にそって具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが事後にチェックする必要性が高いものと考えられます。また、教育委員会が地域住民に対する説明責任を果たし、その活動を充実することが求められています。

このようなことから、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正により、平成20年4月から、すべての教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされました。

【富里市教育委員会の点検及び評価について】

富里市においては、教育行政の基本的目標として策定している「とみさと教育プラン」を基準として、点検・評価を実施します。

この点検・評価については、毎年度末時点で点検及び評価を実施し、その次の年度の9月議会へ提出するとともに、ホームページへ掲載するなど公表します。

なお、実施方法等については、随時見直しを行っていく予定としております。

2. 令和3年度富里市教育委員会委員の活動状況

(1) 会議関係

【定例・臨時会議】

月		4	5	6	7	8(臨)	8	9	10	11	12	1	2	3(臨)	3	合計
内容	専決	0	1	0	0	0	0	0	3	0	1	1	0	0	0	6
	議案	2	5	2	2	0	2	0	1	1	0	1	4	0	8	28
	協議	0	0	1	1	0	0	2	1	0	1	0	2	3	2	13
	報告	8	4	5	3	4	6	5	5	5	6	3	4	1	6	65

(2) その他の主な活動

- 市内小・中学校卒業式
- 市内小学校運動会
- 教科書展示会(成田市)(6月22日)
- 「富里未来の火」採火式(8月18日)
- 富里市文化財保存活用地域計画文化庁認定記念シンポジウム(11月3日)
- 生涯学習母子家庭教育講演会(11月9日)
- 富里市学校教育研究会公開研究会(11月18日)
- 二十歳を祝う会(11月27日)
- 令和4年成人式(1月9日)

３．令和３年度とみさと教育プランに基づく令和３年度事業目標と評価

【概 要】

令和３年度とみさと教育プランに基づく令和４年３月末時点の評価について、

「順調に達成したもの（達成度の評価：Ａ）」は、全７７項目中３８項目（４９．３％）、「概ね順調に達成したものの課題があるもの（達成度の評価：Ｂ）」は、全７７項目中２７項目（３５．１％）、「達成できなかったが一定の成果を得られたもの（達成度の評価：Ｃ）」は、全７７項目中１２項目（１５．６％）と、合計で全７７項目中６５項目（８４．４％）で目標が順調に達成した。

重点項目ごとの達成度の評価は次のとおりである。

重点項目	項目数	順調に達成したもの（Ａ）	概ね順調に達成したものの課題があるもの（Ｂ）	達成できなかったが一定の成果を得られたもの（Ｃ）	達成できずに成果に乏しいもの（Ｄ）
全 体	７７	３８（４９．３％）	２７（３５．１％）	１２（１５．６％）	０（ — ）
学校教育の充実	４６	２２（４７．８％）	１９（４１．３％）	５（１０．９％）	０（ — ）
生涯学習の推進	１５	９（６０．０％）	３（２０．０％）	３（２０．０％）	０（ — ）
文化・スポーツの振興	１６	７（４３．８％）	５（３１．２％）	４（２５．０％）	０（ — ）

新型コロナウイルス感染症等の影響により、事業の実施ができず、目標達成が難しい項目があったが、全体的には多くの項目において、基本目標達成のための取組が順調又は概ね順調に進行した。今後は、コロナ禍において、新しい生活様式を取り入れながら、限りある予算の中で最大の効果が得られるような工夫も、ますます求められる。プラン策定時には、目標を達成するための方策について、あらゆる手段を考察した上で、目標達成に向けて引き続き各課で取り組んでいく。

1	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(1) 確かな学力を育む				
		確かな学力を育てる教育の推進				
事業名		学力向上に向けた取組			開始年度	平成23年度
事業内容		市内小・中学校の児童・生徒に対して千葉県標準学力検査を実施し、各校が学力の状況を把握・分析することで、次年度以降の授業改善に生かしていく。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
県平均得点（小学校）		－5点以上		国語-2. 6点、算数-3. 8点		B
県平均得点（中学校）		－5点以上		国語-1. 3点、社会-2. 8点、 数学-3. 4点、理科-1. 9点、 英語-3. 3点		
(達成度)						
小中学校共に実施教科全てで目標を上回った。一方で、県平均を全ての教科で下回っている。基礎学力の底上げが十分に果たせたとはいえない。						
(課題・改善点)						
児童生徒の学力向上のため、授業改善に重点を置いていきたい。また、「とみの国」検定や試写、音読、100マス計算などに取り組み、基礎学力の向上を図っていく。						

2	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(1) 確かな学力を育む				
		確かな学力を育てる教育の推進				
事業名		研究指定による指導方法の改善			開始年度	平成24年度
事業内容		研究指定を受けた学校は、当該教育課題に関する研究実践を推進し、常に授業の工夫・改善を中心とした研究の推進及び教職員の研修に尽力する。令和3年度の指定校は、富里第一小学校、富里南小学校、日吉台小学校、富里中学校である。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
公開研究会の実施		3校		4校		A
研究成果資料の市内配付		10校		10校		
(達成度)						
令和3年11月18日（木）に、富里第一小学校、富里南小学校、日吉台小学校、富里中学校で、授業研究会を開催した。						
(課題・改善点)						
公開する学校については、各研究部が協力をして公開研究会の運営がスムーズに行えるようにしている。富里市学校教育研究会の公開校については、当研究会の総会で無理なく輪番で回せるように決定している。						

3	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(1) 確かな学力を育む				
		教育内容・方法の改善充実				
事業名		教務主任研修の実施			開始年度	—
事業内容		教育課程の編成・実施・評価・改善等についての理解を深め、各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進を図り、教育内容の充実と授業改善につなげていく。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
研修会の実施回数		4 回		4 回		A
(達 成 度)						
3 月末までに目標である 4 回実施することができた。全国学力・学習状況調査の結果分析や対策を行う際の情報交換を行う貴重な場となった。また、各校の学力面での課題を情報交換し、その対策について相談をすることができた。						
(課題・改善点)						
学力向上のために各校の課題を持ち寄り、より具体性のある対策を検討する場としていきたい。また、全国学力・学習状況調査の結果分析や対策を十分に行っていききたい。						

4	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(1) 確かな学力を育む				
		基礎や基本となる学習への取組				
事業名		「とみの国」検定の実施（漢字・計算）			開始年度	平成22年度
事業内容		基礎学力の定着と学習習慣の定着を目的に、漢字検定と計算検定をそれぞれ年3回実施し、各学年問題に合格した児童・生徒に合格証を授与し達成感を与える。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
小学校合格率		90%		78.6%		C
中学校合格率		90%		54.4%		
(達成度)						
各学校で、年に3回の検定を実施した。令和3年度は練習問題、検定問題を大幅に見直し、児童生徒にとって重要度の高い内容の問題を出題した。結果としては、学習内容の定着が不十分な児童生徒が多いことが判明し、目標の達成には至らなかった。						
(課題・改善点)						
各学校において、基本的な漢字力・算数の計算や技能向上のために有効なものとなるよう、十分な練習時間を確保する。検定後も誤答した問題を復習し、確実な定着を図るよう努める。						

5	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(1) 確かな学力を育む				
		基礎や基本となる学習の取組				
事業名		「富里市きょうざん塾」の実施			開始年度	平成23年度
事業内容		令和版てらこや「富里市きょうざん塾」を夏季休業中に小学校2年生～6年生を対象に5日間実施する。ボランティア団体「きょうざん会」を中心に希望者に対してできるだけマンツーマンに近い形で指導し、基礎学力の向上に取り組む。平成27年度から3会場80名定員に拡大、平成29年度は85名、平成30年度は90名とさらに拡大した。これに伴いボランティア講師の増員と高校生ボランティアの活用を行う。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
参加児童定員数		90名		未実施		C
参加児童・保護者の満足度		90%		0%		
(達成 度)						
今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止として、実施しなかった。きょうざん会役員と次年度の開催に向けて、協議をした。						
(課題・改善点)						
入塾希望者が多いため、定員の増加に向けて、一会場当たりの募集枠の増加や、会場数の増加を図る必要がある。ボランティアの数は引き続き確保するよう努めていくが、今後は学習内容や指導法についても充実させていく。						

6	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(1) 確かな学力を育む				
		外国語教育の充実				
事業名		ALT（外国語指導助手）・JTE（外国語指導補助員）の配置			開始年度	昭和60年度
事業内容		小・中学校にALTやJTEを配置し、英語のコミュニケーション能力の育成や国際理解教育の推進を図る。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
外国語指導補助員会議 実施回数		年10回		年6回		B
ALTの授業参観回数		年2回実施		年2回実施		
(達成度)						
ALT3名とJTE5名を市内小・中学校に配置し、英語科授業や外国語活動において、担任や教科指導担当と連携しながら、児童生徒の主体的な学びの充実に努めた。新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮しながら、外国語指導補助員会議を実施し、学習状況等の情報共有を図った。ALTの授業参観は、学校、委託業者と連携を取り行った。						
(課題・改善点)						
ALT3名、JTE5名を各校に配置している。計画的、効率的な会議、参観を行っていく必要がある。						

7	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(1) 確かな学力を育む				
		外国語教育の充実				
事業名		「英会話の日」推進事業の実施			開始年度	平成19年度
事業内容		小・中学校において英会話に親しむ活動を行い、外国人とのコミュニケーション活動や異文化に触れる活動を通して国際理解教育の推進を図る。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
英会話の日の実施回数		各学校年間3回		各学校年間2回		A
(達成 度)						
市内10校で新型コロナウイルス感染症予防対策をとり、英会話の日を実施した。児童生徒がALTとの対話や異文化に触れる活動を行い、日々の授業で学んだことを活用する時間となった。新型コロナウイルスの感染状況も鑑みて今年度は2回の実施となった。						
(課題・改善点)						
国際理解教育の推進を図るために、児童生徒が生きた英語とふれ合う機会の環境整備や学習内容の充実をより図っていく必要がある。						

8	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(1) 確かな学力を育む				
		ふるさと学習の推進				
事業名		教育課程全体を通した「ふるさと学習」の推進			開始年度	平成21年度
事業内容		子供たちがふるさとである富里を理解し、地域への誇りと愛情を育んでいくために、「ふるさと学習」を発達の段階に応じて教育課程に位置付け、推進する。中学年では副読本を活用して、富里市に関する学習の充実を図る。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
小学校3・4年生でのふるさと学習の実施時数		3年70時間・4年58時間		各学校において、年間指導計画に沿って実施（100%）		A
(達成 度)						
学習指導要領では、小学校3・4年生において、自分たちの住んでいる身近な地域について学習することとなっている。各学校では、これらの地域の学習について適切な時間年間指導計画に位置づけており、副読本「わたしたちの富里市」を活用して授業を展開した。						
(課題・改善点)						
各校における本事業に関する取組を広く伝えることが大切である。今後は、富里市教育ネットワーク等を活用して様々な取組を紹介し合うなど、情報共有を積極的に行っていく。						

9	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(1) 確かな学力を育む				
		ふるさと学習の推進				
事業名		「ふるさと学習」に関する研修の実施			開始年度	平成21年度
事業内容		富里の歴史についての理解を深め、今後の指導に生かしていけるよう、夏季休業中に「ふるさと巡検」を実施する。研修会では、専門性の高い生涯学習課職員を講師として、子供たちへの指導に役立つ情報を提供し、指導者の育成を図る。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
教職員を対象とした ふるさと巡検の実施		希望者5名		未実施		C
(達成度)						
今年度は、8名の希望者があったが、直前でまん延防止等重点措置が適用されたため、実施しなかった。生涯学習課の職員と次年度の開催に向けて、協議した。						
(課題・改善点)						
富里の歴史についての理解を深めるため、引き続き「ふるさと巡検」を実施していく。高い専門性をもった生涯学習課の職員を講師に迎え、実地に出向く研修を中心に実施する。						

10	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(1) 確かな学力を育む				
		ふるさと学習の推進				
事業名		地域教材の配付と活用			開始年度	平成14年度
事業内容		小学校3・4年生の社会科学習で活用するための社会科副読本「わたしたちの富里市」を作成・配付する。この副読本を活用した授業を通して、地域への愛着の増進、故郷である富里の将来を担う人材の育成を目指す。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
小学校3・4年生の社会科授業での活用		7校		7校		A
(達成度)						
各小学校に、社会科副読本「わたしたちの富里市」を配付している。活用状況については、小学校中学年において全ての小学校で活用されており、地域への愛着の増進を図っている。また、学習指導要領の改訂に伴い、副読本も改訂作業を行い、各校に配布した。						
(課題・改善点)						
地域社会の状況や新学習指導要領の内容を鑑み、社会科副読本の改訂・印刷製本を円滑に進めていく必要がある。						

11	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(1) 確かな学力を育む				
		特別支援教育の推進				
事業名		富里市特別支援教育専門員巡回支援事業（巡回相談）の実施			開始年度	平成19年度
事業内容		特別支援教育の専門家チームによる巡回を市内全幼稚園・保育園・認定こども園（私立も含む）、市立小・中学校で年間2回（計画訪問）実施し、特別支援教育の推進を図る。要請による巡回がある場合には実施し、園や学校だけでなく家庭における支援の仕方についても助言し、個別支援の充実を図る。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
訪問回数		42回		42回		A
要請による訪問回数		5回		5回		
(達成度)						
計画訪問は、私立を含む市内幼稚園・保育園・こども園及び市立小・中学校の訪問を計画通り実施した。個別に支援を必要とする児童生徒への支援の仕方について助言をすることができた。						
(課題・改善点)						
幼稚園・保育園の巡回は、1回目は年長を対象の中心とすることで、小学校への適切な就学指導につなげることができている。更に後期の巡回対象を絞ることで、より適切な指導につなげたい。小・中学校へも計画的に訪問し、特別な支援を要する児童生徒のニーズに応じた支援の仕方について助言することができている。今後も、効果的な巡回訪問になるように計画を行っていく。						

12	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(1) 確かな学力を育む				
		特別支援教育の推進				
事業名		ライフサポートファイルの活用			開始年度	平成19年度
事業内容		特別な支援を要する児童・生徒の保護者にライフサポートファイルを配付し、各機関で受けた検査の結果や支援の状況を記録し、相談先や進学先で活用することにより、子供の状態を的確に把握し、迅速かつ適切な支援を行う。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
小・中学校の特別支援コーディネーター対象の研修回数		3回		3回		B
ライフサポートファイルについての伝達講習		10校		10校		
(達成度)						
幼小中の特別支援コーディネーター等を対象に、個別の指導計画、ライフサポートファイルの活用、また早期支援・指導の在り方等について、特別支援教育研修会の内容の充実を図ることができた。						
(課題・改善点)						
ライフサポートファイルについては周知しているが、将来にわたる活用方法の理解を深めるためにも研修や巡回訪問等で繰り返し周知していくと共にライフサポートファイルの活用を広げていく必要がある。						

13	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(1) 確かな学力を育む				
		特別支援教育の推進				
事業名		個別指導補助員の配置			開始年度	平成18年度
事業内容		特別支援学級に在籍する子供や通常学級に在籍する特別な支援を要する子供に対してきめ細かな指導をするために、全ての小・中学校に個別指導補助員を配置する。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
配置人数		14名		14名		A
(達成 度)						
個別指導補助員を全小・中学校に14名配置していることで、特別支援学級や通常学級に在籍する特別な支援を要する、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、学習面、生活面でのきめ細やかな支援を行うことができた。						
(課題・改善点)						
特別な支援を必要とする通常学級や特別支援学級の児童・生徒が増えている。より児童・生徒や学校、保護者のニーズに応えられる体制作りをするため、複数校に複数配置が必要である。引き続き、支援員を増やす必要がある。						

14	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(1) 確かな学力を育む				
		特別支援教育の推進				
事業名		発達相談の実施			開始年度	平成18年度
事業内容		学習上の困難さや生活上の課題を抱えた児童・生徒及び保護者、担任の悩みや心配を解消するために、月2日臨床発達心理士による相談業務を実施する。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
相談の実施回数		96回		96回		A
(達成 度)						
今年度も多くの相談があった。相談員は単に相談に乗るだけでなく、指導主事を通して学校と連携をとりながら包括的な支援に当たった。						
(課題・改善点)						
発達相談の日程調整を行い、緊急性の高いものを優先させる等、相談者のニーズに応えるようにしていく。						

15	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目	(1) 確かな学力を育む					
	幼児教育の充実					
事業名	浩養幼稚園・浩養小学校を核とした幼小連携				開始年度	平成23年度
事業内容	運動会やバザー、避難訓練、秋祭りなど様々な行事を通して幼稚園児と小学校児童の交流を図る。小1 プログレムの解消や有効な幼小連携の在り方について研究する。					
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
幼小連携の行事数		5回以上		5回		A
(達成度)						
合同運動会、防災訓練等共に行事を行う際には、幼稚園と小学校で密に連絡を取り合っている。その結果、幼稚園と小学校で充実した交流が行われ、園児が小学生の活動や生活に興味をもつきっかけとなっている。同じ敷地にあることから、安心感につながっている。						
(課題・改善点)						
行事数はもちろん、日々の生活の中で、今後もより小学校と幼稚園で連絡を密に取り合い、研修の充実や交流に努めていく必要がある。						

16	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(1) 確かな学力を育む				
		学校図書館の活用				
事業名		学校図書館司書の配置による読書活動の推進			開始年度	平成17年度
事業内容		「富里市おすすめの本」を活用した読書活動を推進し、言語活動の充実を図るための基礎的な能力を養う。 学校図書館司書と各校の図書館担当教諭が連携し、図書室の環境整備を進める。 「図書利用アンケート」を実施し、その結果を授業に活用する。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
一人あたりの貸出冊数		小学校60冊 中学校10冊		小学校62.7冊 中学校9.2冊		B
図書利用アンケートの実施回数		年間2回		年間2回		
(達成度)						
学校図書館司書が中心となり、児童生徒にさまざまなジャンルの本を紹介し、読書活動を啓発している。結果として小学校は目標を達成した。中学校において、令和2年度と比べ、貸出冊数が増加したが、目標値からは未達であった。						
(課題・改善点)						
学校図書館司書による、お薦めの本の紹介や読み聞かせなどを行うことで、多くの児童生徒が読書に親しめるようにする。						

17	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(1) 確かな学力を育む				
		地域一体のキャリア教育の推進				
事業名		中学生を対象とした「わくわくWorking! (富里市職場体験学習)」の充実			開始年度	平成18年度
事業内容		中学2年生が市内及び近隣市町の事業所において職場体験学習を行い、社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や職業観を育てる。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績(実施率)		総合評価
受け入れ可能事業所数 (1箇所あたり5人)		82箇所		未実施		C
(達成度)						
今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止として、実施しなかった。代替として各校で事業所の方を招いての学習、インターネットを活用した調べ学習、オンラインでの学習などを実施した。						
(課題・改善点)						
今後新たな事業所の開拓を進め、一人ひとりが充実した活動になるようにしていく必要がある。						

18	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(1) 確かな学力を育む				
		地域一体のキャリア教育の推進				
事業名		小学生を対象とした「ゆめ・仕事びったり体験（地域密着観察学習）」の実施			開始年度	平成21年度
事業内容		小学6年生が「わくわくWorking!」の登録事業所を活用して職場見学及び体験を行い、社会的・職業的自立に向けて必要となる能力や職業観を育てる。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
受け入れ可能事業所数 （1箇所あたり5人）		38箇所		未実施		C
(達成度)						
今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止として、実施しなかった。代替として各校で事業所の方を招いての学習、インターネットを活用した調べ学習、オンラインでの学習などを実施。						
(課題・改善点)						
新型コロナウイルス感染症により、事業所での学習が厳しい状況となっている。また中学校で行っている「わくわくWorking!」と重なる部分が多くある。1つについて深く学習するよりは職業について見識を広める学習にしていき、中学校へと繋げていくことが重要であるため各学校毎に実態に合ったキャリア教育へ移行していく必要がある。						

19	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(1) 確かな学力を育む				
		教職員の資質の向上				
事業名		幼稚園教員の指導力向上研修			開始年度	平成19年度
事業内容		市内各幼稚園の様子を参観をし、活動内容や支援方法、家庭との連携等について助言を行う。 夏季の研修会において日々の実践につながる研修を行う。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
研修回数		幼稚園教諭(6名)が 1回以上の研修を実施		新型コロナウイルス 感染拡大のため中止		B
夏季研修会		1 回		1 回資料実施		
(達成度)						
夏季研修会においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から資料配付とし、個に寄り添った指導の充実について考える機会をもった。また、富里市特別支援教育研修会にも参加を促し、研修会へ参加してもらうことで小学校への円滑な引き継ぎに努めた。						
(課題・改善点)						
夏季研修会での研修内容を園内で共有していき、より日々子どもたちへの関わりや指導に生かせるようにしていくためにも研修の充実を今後も図っていく。また、研修内容についても、実際に幼児に関わる教員が抱える問題点も考慮し、充実した研修になるように努める。						

20	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(1) 確かな学力を育む				
		教職員の資質の向上				
事業名		教科指導員制度の充実			開始年度	平成18年度
事業内容		各校での授業研究において指導・助言を行う教科指導員を小中学校の中から選任し、教員の指導力向上を図る。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
活用回数		10回		4 回		B
(達成度)						
若年層の研修は県教育委員会が、校内の研修は北総教育事務所が指導する体制ができている。また、県が指定する教科指導員もあり、そちらの活用も行われている。そのため、教諭層を中心とした市独自の教科指導員の活用が進まなかった。						
(課題・改善点)						
教員の指導力向上については、県教育委員会による研修体制の整備、県教育委員会が指定している指導員等がいる。そのため市の教科指導員はほとんど活用されなかった。次年度以降は実施せず、他の講師派遣を推奨していく。						

21	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(1) 確かな学力を育む				
		教職員の資質の向上				
事業名		教職員夏季研修会			開始年度	平成16年度
事業内容		市立小・中学校の教職員が、4講座のいずれかにおいて専門的な研修（希望制）を受けることで、実践的な指導力の向上を図る。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
開催講座数		4 講座		未実施		B
事後アンケート調査 「とてもよかった」「よかった」		90%		未実施		
(達 成 度)						
新型コロナウイルス感染症予防のため、今年度は講師を招いての講座は実施しなかった。オンラインでの実施も検討したが、オンラインでの実施に課題が多く、できなかった。夏季研修会の講座とは別の研修会については、ICT研修を中心に実施した。						
(課題・改善点)						
夏季研修の講座を、時代と地域のニーズに応じて精選していく必要がある。また、より多くの教職員が参加できるよう、開催日時の設定や、オンラインによる研修等ができるよう環境整備も含め準備を進めていく必要がある。						

22	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(1) 確かな学力を育む				
		ICTを活用した学習の推進				
事業名		ICTに係る教員の指導力向上に向けた取組			開始年度	令和3年度
事業内容		市内全小中学校教職員対象にICT利活用の研修会を実施することで、ICTを活用した授業力、児童生徒へのICT活用指導力の向上を図る。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
ICT利活用研修の実施回数		年2回		年8回		A
(達成度)						
タブレット端末利活用研修会を中心に研修会を実施した。全体での研修会や情報教育を推進する教員向けの研修会など様々な内容での研修会を実施した。						
(課題・改善点)						
全体研修、少人数研修、レベル別研修など人数や内容等を工夫することで、より実態に合った研修会が開催できるようにしていく必要がある。						

23	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(1) 確かな学力を育む				
		ICTを活用した学習の推進				
事業名		情報機器環境整備の充実に向けた取組			開始年度	令和3年度
事業内容		情報機器を効果的に活用した授業展開ができるよう、各学校の情報機器の環境整備に向けた取組を継続する。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
大型モニター整備率 （普通教室・特別教室）		100%		78%		B
(達成度)						
普通教室への大型モニターの整備が年度末に完了し、少しずつ教育環境の整備が整いつつある。今後は特別教室の整備も進め、全教室への整備を行っていく。						
(課題・改善点)						
タブレット端末をより効果的に活用するためには、大型モニターの整備は必須であり、特別教室も含めて、整備を進めていく必要がある。また旧型のモニターはタブレット端末との接続ができないため、入替をする必要がある。						

24	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(2) 健全な心と体を育む				
		豊かな心の育成				
事業名		道徳教育の充実			開始年度	平成23年度
事業内容		小・中学校において道徳教育推進教師を中心に、創意工夫した授業を展開する。 また、授業を地域に公開し、地域・家庭と連携し道徳教育の充実を図る。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
道徳の時間についての 指導法研修の実施		年間1回		未実施		B
道徳の授業公開の回数		各校年間1回		未実施		
(達成度)						
新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から教育関係講座で道徳指導法の研修を実施することはできなかったが、各学校で教材や発問の工夫等を行い、毎時間の授業を大切に行っている。授業公開については、各学校の授業参観や公開研究会、5年目以下研修会など、各学校の年間計画に従って実施した。						
(課題・改善点)						
年間35時間の時数を確保し、千葉県における道徳教育の主題である「『いのち』のつながりと輝き」について深く考えさせる題材や資料を工夫していく。また、千葉県教育委員会作成の映像教材の活用等により、児童生徒の実態に合った学習が展開できるように各校へ働きかけていく。						

25	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(2) 健全な心と体を育む				
		健やかな体の育成				
事業名		体力向上に向けた取組			開始年度	平成25年度
事業内容		体力調査を基に市内の児童・生徒の体力分析を行い、市体力向上研究部で協議し、より効果的な体力向上の取組を検討する。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
体力向上研修会開催回数		1 回		1 回		B
いきいきちばっ子 「遊・友スポーツランキング ちば」の種目の活用		10校		7 校		
(達成度)						
5月に体力向上研修会を開催し、本市児童生徒の体力向上に向けた各校の取組について、情報交換を行った。小学校7校については、「遊・友スポーツランキングちば」のチャレンジスピード2に取組、体力の向上を図っている。中学校は部活動等で体力向上を図ったため、「遊・友スポーツランキング」は実施しなかった。						
(課題・改善点)						
新型コロナウイルス感染拡大により、小学校の外遊びや中学校の部活動ができない時期があったため、児童生徒の運動量が減少し、体力面も低下がみられた。今後、感染予防に努めつつ、児童生徒の運動量と体力がコロナ禍前までの水準に戻せるように働きかけていく。						

26	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(2) 健全な心と体を育む				
		不登校やいじめ等への対応				
事業名		長欠者調査及び長欠担当者会議による早期対応			開始年度	平成19年度
事業内容		長欠担当者会議を年間2回開催し、長欠児童・生徒への対応について研修し、早期対応に努める。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
小学校不登校率 （30日以上）		0.9%以下 （過去3年間の市平均）		5.52%		B
中学校不登校率 （30日以上）		4.5%以下 （過去3年間の市平均）		12.42%		
(達成度)						
今年度は、新型コロナウイルス感染症に係る欠席数が増加した。長欠担当者会議を開催し、長欠解消を目的とした個別の児童生徒のケース会議を各学校で行うために、県の不登校対策支援チームの派遣を要請し研修を行った。						
(課題・改善点)						
「児童生徒理解・教育支援シート」の研修を行うことにより、学校が行うケース会議が増えてきた。さらに、長欠の解消につなげるために、各学校のケース会議の様子などについて共有を図っていく。						

27	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(2) 健全な心と体を育む				
		不登校やいじめ等への対応				
事業名		適応指導教室（ふれあいセンター）			開始年度	平成7年度
事業内容		ふれあいセンター（適応指導教室）で不登校の児童・生徒の居場所づくりを行うとともに、学校復帰に向けての取組を行う。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
ふれあいセンターの出席率		50%		41%		B
月一度以上学校に登校できた児童生徒の状況		70%		24%		
(達成度)						
長欠児童生徒の状況については、学校からヒアリングをして把握し、ふれあいセンターにつなげるように働きかけた。						
(課題・改善点)						
不登校の児童生徒がふれあいセンターに通級できるようになったり、学校復帰につながったりすることもあった。ふれあいセンターでの様々な活動により、少しずつエネルギーを蓄えさせていく。						

28	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(2) 健全な心と体を育む				
		不登校やいじめ等への対応				
事業名		いじめ問題の実態把握と取組			開始年度	平成24年度
事業内容		いじめの実態調査を行うとともに、未然防止のための教育相談や教員の研修を実施する。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
いじめの解消率		100%		100%		B
いじめに関する研修の実施回数		3回		1回		
(達成度)						
各学校における、いじめの定義への解釈が定着してきた。研修では、いじめ認知後の早期対応・早期発見による解消に努めることを確認した。また同時に未然防止策の重要性について共通理解を図った。						
(課題・改善点)						
いじめは表面化しているものだけでなく、どこにでも起こりうるという前提に立ち、早期発見・早期対応に努めるとともに、毎学期実施しているいじめ状況調査において、いじめ認知の在り方を再度共通理解すべきである。またいじめについては学校体制で取り組み、同時に解消後においても3か月を目安に今後も追跡調査を行う。						

29	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(2) 健全な心と体を育む				
		不登校やいじめ等への対応				
事業名		教育相談の実施			開始年度	平成18年度
事業内容		課題を抱える保護者や児童・生徒に早期に対応するため教育相談員を配置し、教育相談活動を行う。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
家庭訪問数		200件		195件		A
相談件数		750件		542件		
(達成度)						
2名の教育相談員が週3日の勤務で家庭訪問や教育相談活動を実施。各学校のニーズに応じた形で実施した。						
(課題・改善点)						
不登校児童生徒に対して家庭訪問を実施しているが、数回の訪問ではなかなか学校復帰やふれあいセンター通所まではつながらないことから粘り強く継続していかなければならない。						

30	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(2) 健全な心と体を育む				
		情報モラル教育の推進				
事業名		情報モラル教育の推進			開始年度	平成21年度
事業内容		教員向けの情報モラル教育・授業プログラムを提供し、子供たちが携帯電話等を介したトラブルに巻き込まれないように、子供たちやその保護者を対象とした「ケータイ・スマホ出前授業」を実施する。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
スマホに関する授業実施校（外部講師も含む）		市内全小学校（7校）		7校		A
情報モラル教育・授業プログラム提供		市内全小中学校（10校）		10校		
(達成度)						
「ケータイ・スマホ出前授業」の希望を市内全小学校にとり、希望のあった学校で実施した。「家庭でのルールづくり」、「スマートフォンの利便性と危険性」など要望に応じた内容で、ケータイ・スマホの安全で適切な使用法について児童や保護者に啓蒙を図った。情報モラル教育・授業プログラムについては、随時資料等を配付して、情報提供を行った。						
(課題・改善点)						
近年、スマートフォンはますます多機能化・パーソナル化しており、小・中学生のスマートフォンの所有率も高くなっていることから、令和4年度も「ケータイ・スマホ出前授業」を実施する。更に外部講師の活用も推奨していく。スマートフォンを適切に利用し、学びの可能性を広げる使い方ができるよう、情報モラル教育を推進していく。						

31	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(2) 健全な心と体を育む				
		ジョイント・スクール推進事業の取組				
事業名		ジョイント・スクール推進事業の充実			開始年度	平成26年度
事業内容		既存の三つの中学校区をそれぞれ一つの学園として、現行の6・3制を基盤に、義務教育9年間を見通した教育を行う。また、各学園において、9年間の児童・生徒の学びと成長、発達を考慮し、地域の特色を生かした小・中連携、交流活動を積極的に推進する。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
意識調査 「学校が楽しい」回答率		65%		95.7%		B
(達成度)						
各学園で、新型コロナウイルス感染症拡大防止を意識しながら、どのように取り組んでいけるか検討し、実施につなげた。意識調査においては、学校が楽しいという質問に対し、95.7%が肯定的な回答であった。						
(課題・改善点)						
各学園でジョイント・スクール総会や、体制作りをする上での実務者会議等を、感染症を考慮しながら開催した。昨年度、活動できなかったことを考えると、前進したといえる。今後も総会等で確認された取組をより浸透させていくことが必要である。						

32	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(2) 健全な心と体を育む				
		次世代の子ども達健康を推進するための対応				
事業名		小児生活習慣病検診の実施			開始年度	平成8年度
事業内容		中学2年生を対象に、総コレステロール・HDLコレステロール・中性脂肪等の血中脂質の検査、血色素・ヘマトクリット・血清鉄等の貧血検査の結果を基に食生活及び生活習慣の改善を指導し、小児生活習慣病の予防に努める。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
受診率		100%		91.5%		B
要医療者割合		5.0%以下		8.7%		
(達成度)						
受診率が低いのは、欠席者が未実施であることに関与していると思われる。要指導者・要管理者の割合も合計すると、生徒全体の72.8%となる。放置すれば、生活習慣病に移行してしまうことから、生活習慣病検診の必要性及び生活習慣病予防のための保健指導を推進し、生徒の意識を高めていくことが必要である。						
(課題・改善点)						
小児生活習慣病検診の課題は、富里市全体の問題である。心疾患での死亡者が高い等の地域の特性と絡めて、市民の全体の健康意識の改善等、地域ぐるみで取り組みが必要でもある。今後はさらなる保健指導の充実、小学生の生活習慣病検診実施等の検討等が必要である。						

33	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(2) 健全な心と体を育む				
		安全においしく楽しむ食育の推進				
事業名		安全な食材選びと衛生管理の徹底			開始年度	昭和48年度
事業内容		学校給食に使用する食材について、納品時の検収の徹底に努め、食材や調理器具等の細菌検査を定期的実施する。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
検便細菌検査の実施回数		年24回（月2回）		年24回（月2回）		A
食品細菌検査の実施回数		年2回		年2回		
(達成度)						
学校給食衛生管理基準を遵守し、各種細菌検査を実施して衛生管理を徹底するとともに、食材納品時の検収に際しては細心の注意をはらった。						
(課題・改善点)						
検査の実施回数は、計画に則って実施している。衛生管理や食材納品時の検収については、安全安心な給食提供のため、引き続き細心の注意をはらい、徹底して行う。						

34	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(2) 健全な心と体を育む				
		安全においしく楽しむ食育の推進				
事業名		地場産品の活用の拡大			開始年度	昭和48年度
事業内容		豊かな農産物に恵まれている富里市の利点を生かし、新鮮で生産者の顔の見える地場産品を給食へ積極的に活用する。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
富里米の使用回数 （米飯日）		152回		151回		A
(達成度)						
主食の一つである米飯については、全て富里産コシヒカリを使用しており、その他の生鮮野菜や豚肉なども地元産を積極的に活用した。令和3年度は、台風による臨時休校が1日あったため151回となった。						
(課題・改善点)						
安全・安心と購入経費とのバランスが適切になるよう配慮しながら、米以外の食材についても地場産品の一層の活用を図る。						

35	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(2) 健全な心と体を育む				
		安全においしく楽しむ食育の推進				
事業名		食に関する指導の推進			開始年度	昭和48年度
事業内容		児童・生徒を対象に朝ごはんの重要性、食事のマナー、好き嫌いをなくすことや生活習慣病予防などをテーマに、発達段階や学習内容を考慮して系統的な食育の授業を行うほか、食を通じて地域を理解することや食文化の継承など食に関する指導を行う。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
食育指導等の回数		83回		78回		A
給食だより等の配布		25回		25回		
(達成度)						
「富里市教育委員会食育推進プラン」に基づき食育を行っており、栄養士の授業は概ね好評である。食育授業後はクラスに留まり、感染症対策に留意して喫食前まで給食時指導を行った。新型コロナウイルス感染症の影響により、小学校2回、中学校3回が中止となった。また、既存の広報媒体（給食だより・献立表）を用いて、食に対する意識を高めるよう指導した。						
(課題・改善点)						
栄養士が作成した食育DVDを使用する授業は行っているが、今後は、タブレット端末の利用によるデジタル教材の活用など、より効率的な手法で、更に食育の浸透を図っていくことが課題である。						

36	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(2) 健全な心と体を育む				
		安全においしく楽しむ食育の推進				
事業名		給食残菜問題への取組			開始年度	昭和48年度
事業内容		給食の残菜について、残菜率の減少及び残菜の処理方法を含めて多角的に検討する。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
給食の残菜率		15%		17.88%		C
(達成度)						
献立に、行事食や、創意工夫をこらしたメニューを取り入れるよう心掛けるほか、小・中学校と連携を図り、食育を通じて食の大切さや規則正しい食生活を身につけることで、少しでも食が進み、食べ残しが少なくなるよう促した。また、献立と残菜率の関連性を分析し、残菜の減少に繋がるよう役立てた。						
(課題・改善点)						
残菜については、献立の工夫はもとより、学校での給食時間の妥当性、家庭での食事の在り方など、学校と家庭を含めた連携や各学校との情報交換等により残菜率の減少に努める。また、残菜のリサイクルを含む利活用についても、引き続き研究を行っていく。						

37	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(3) 地域に開かれた信頼される学校づくり				
		学校開放や地域公開				
事業名		学校での地域公開授業の実施			開始年度	令和2年度
事業内容		保護者や地域の方々に授業や学校行事を積極的に公開し、社会に開かれた教育課程を編成することで、学校だけでなく地域全体で子どもを育てていく。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
地域や保護者の方々に 授業や学校行事を 3回以上公開した学校数		10校		10校		A
(達成度)						
新型コロナウイルス感染症の影響で例年よりも地域や保護者に公開をする機会は減少傾向にあるが全校3回以上の公開は実施できた。今後新型コロナウイルス感染拡大の状況を見ながら学校と連携を図りながら行っていく。						
(課題・改善点)						
学校行事や授業参観、教育ミニ集会等様々な機会に保護者や地域の方々に公開できるように学校と連携を図りながら事業を進めていく。また、オンラインでの公開についても検討を進めていく。						

38	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(3) 地域に開かれた信頼される学校づくり				
		学校開放や地域公開				
事業名		学校支援ボランティア活用の推進			開始年度	平成20年度
事業内容		学校の教育活動や環境整備について、保護者及び地域の人材がボランティアとして活動することを支援する。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
学校支援ボランティア登録者数		個人380人、団体30団体		個人121人、団体4団体		B
学校支援ボランティア活用状況		個人360人、団体25団体		個人121人、団体4団体		
(達成度)						
ボランティアを募集し、各学校で様々な教育活動や環境整備に活用した。更なるボランティアの充実を行っていきたい。						
(課題・改善点)						
今後も登録者が増えるようにまた効果的に活用できるよう市のホームページで周知徹底を行っていく。合わせてコミュニティ・スクールでも協力依頼を行っていきたい。						

39	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(3) 地域に開かれた信頼される学校づくり				
		開かれた学校づくり				
事業名		学校評議員制度の充実			開始年度	平成15年度
事業内容		地域に開かれた学校づくりを推進する観点から、学校評議員を置き、学校や地域の実情に応じて、学校運営に関し、保護者や地域住民等の意向を把握・反映しながらその協力を得るとともに、学校としての説明責任を果たしていく。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
学校評議員設置校		10校		10校		A
学校評議員会議開催回数		2学期制（6校）12/12回 3学期制（4校）12/12回		2学期制（6校）16回 3学期制（4校）12回		
(達成度)						
新型コロナウイルス感染症の影響が少なからずあるが、各学校での会議開催回数について予定通り開催できている。学校評議員の意見や協力を得ることにより、各学校の教育活動に進展が見られた。学校と地域のパイプ役、地域情報の収集、地域団体との連携など、目に見えない形での支援や協力が地域ぐるみの教育を充実させている。						
(課題・改善点)						
学校評議員制度からより発展させ、学校運営の現状、児童生徒が抱える課題等を保護者や地域住民、学校が共有し、一体となって解決に取り組むことができる学校運営協議会制度の導入を検討する。						

40	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(3) 地域に開かれた信頼される学校づくり				
		開かれた学校づくり				
事業名		学校評価の実施と情報提供			開始年度	平成15年度
事業内容		地域に開かれ、信頼される学校づくりを進めていくことを目的として、各幼稚園、小・中学校において学校評価を実施し、学校・園の改善に努める。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
自己評価の実施と公表		2園、10校		2園、10校		A
学校関係者評価の実施と公表		2園、10校		2園、10校		
(達成度)						
自己評価、関係者評価については、市内全園・全校で実施した。令和4年度にむけて、各園・各校において検証を行い、改善に努めた。						
(課題・改善点)						
学校の課題を把握・改善するために学校評価を効果的に活用することが課題である。						

41	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(4) 安全・安心な教育環境の整備				
		安全教育の推進				
事業名		防犯・不審者情報の適宜・適切な配信			開始年度	平成19年度
事業内容		不審者情報等を速やかに小・中学校、高校等へ配信する。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
「まちcomi」システムの加入世帯数		100%		97%		B
(達成度)						
年度初めに「まちcomi」システムの利用を各学校に呼びかけた。						
(課題・改善点)						
各学校へ「まちcomi」の活用方法を指導していくとともに、保護者への加入促進を引き続き行っていく。						

42	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(4) 安全・安心な教育環境の整備				
		安全教育の推進				
事業名		防災及び交通安全教育の充実			開始年度	—
事業内容		地震や風水害等の災害に対する意識を高めるため、避難訓練等の防災教育の充実を図る。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
防災マニュアルの作成		市立幼稚園、小・中学校で作成		100%		A
避難訓練の実施		市立幼稚園、小・中学校で1回以上実施		100%		
(達成度)						
防災マニュアルを作成し、市立幼稚園、小・中学校で防災訓練を実施した。						
(課題・改善点)						
防災マニュアルについては、周辺環境や時代の変化に合わせて、毎年見直しをする必要がある。また、避難訓練については、実態に即した計画をし、実施を工夫していく。						

43	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目	(4) 安全・安心な教育環境の整備					
	安全教育の推進					
事業名	学校における防犯教室の実施				開始年度	
事業内容	防犯意識を高めるため、市立幼稚園、小学校において、防犯技能を身につけるための防犯教室を開催する。					
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
防犯教室の実施 （不審者対応避難訓練等 も含む）		市立幼稚園、小・中学校 で1回実施		58.3%		B
(達成度)						
市立幼稚園2園、小学校4校、中学校1校で実施した。実施していない学校については、計画はしていたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて実施できなかった。						
(課題・改善点)						
なるべく早い時期での防犯教室防犯訓練について検討する。						

44	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	教育総務課
重点項目		(4) 安全・安心な教育環境の整備				
		学校施設の整備				
事業名		学校施設の既存不適格対応			開始年度	令和2年度
事業内容		法令改正等により、現在既存不適格となっている小中学校の防火シャッター危害防止装置及び小荷物専用昇降機防火区画の設置に係る実施設計及び改修工事を実施する。また、富里小学校の間仕切壁の耐火構造が既存不適格であることから実施設計及び改修工事を実施する。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
既存不適格の状態となっている対象校について、現行法令に適合するよう改修工事を実施する。（小学校）		100%		100%		A
(達成度)						
小学校の防火シャッター危害防止装置及び小荷物専用昇降機防火区画の設置に係る既存不適格改修工事については、9月末に完了した。 富里小学校間仕切壁耐火構造に係る既存不適格については、工事は8月末に完了し、教室については9月から通常通り使用した。						
(課題・改善点)						
現行法令に不適格事項が生じている中学校2校（富里北中学校、富里南中学校）の防火シャッター危害防止装置及び小荷物専用昇降機防火区画の設置については、令和4年度に実施設計、令和5年度に改修工事を実施する。						

45	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	教育総務課
重点項目		(4) 安全・安心な教育環境の整備				
		学校施設の整備				
事業名		学校施設（遊具含む）及び設備の修繕・工事及び安全点検の充実			開始年度	平成19年度
事業内容		小中学校施設及び設備の維持管理修繕・工事について、児童生徒の安全な学校環境の確保のため、修繕内容等を精査し優先度を考慮のうえ迅速に対応する。また、職員で補修可能な箇所は、経費節減のため職員により対応する。なお、施設・設備等の点検を行い安全性を確認するとともに、危険箇所については撤去・修繕等を行う。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
小学校施設・設備の修繕・工事及び安全点検を実施する。		7校		7校		A
中学校施設・設備の修繕・工事及び安全点検を実施する。		3校		3校		
(達成度)						
学校施設及び設備に係る修繕・工事については、修繕内容を精査し優先度を考慮のうえ実施した。 安全点検については、特定建築物定期調査等を行い、指摘箇所については、緊急性を考慮のうえ修繕を行った。 また、学校が実施する遊具の安全総合点検に同行し、各点検項目について確認した。						
(課題・改善点)						
建築後40年を超える校舎が半数を占めることから、予防・維持修繕に努める。 今後も点検結果及び学校要望等による危険箇所の修繕・工事について、優先度を考慮のうえ予算要求を行うとともに、危険箇所が発見された場合は、児童生徒の安全確保のため、早急に対応する。						

46	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	教育総務課
重点項目		(4) 安全・安心な教育環境の整備				
		学校施設の整備				
事業名		トイレの洋式化			開始年度	令和2年度
事業内容		新型コロナウイルス感染症対策として、地方創生臨時交付金を活用し、小・中学校のトイレ洋式化を進め、児童・生徒の衛生環境の向上を図る。 令和2年度は、小・中学校合わせて120箇所の洋式化改修工事に係る実施設計業務に着手した。 なお、小・中学校の洋式トイレ設置率は、令和2年9月1日現在33.3%であるが、整備後の設置率は約54%となる見込みである。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
小中学校トイレ洋式化改修工事を実施する。		100%		100%		A
(達成度)						
繰越明許による実施設計業務委託が4月末に完了した。 入札により7月に先行して契約を締結した小中学校7校111基については、和洋リモデル工法の認定施工店との調整により、10月より着手し、11月末に工事が完了した。 後続の小中学校3校9基については、入札により9月末に契約を締結し、令和4年2月末に工事が完了した。						
(課題・改善点)						
トイレの洋式化については、今年度児童・生徒数に応じた改修が完了した。 今後は、学校のトイレに求められる課題が多数ある中でも、特に老朽化による既設排水管の漏水や詰まりが懸念される。 また、内装の劣化で壁タイルの剥離もあり、衛生面から、湿式床から乾式床へなど、トイレ空間の全面的な改修も検討していく必要がある。						

47	分 類	2 生涯学習の推進	基本目標	1・3	所 管	生涯学習課
重点項目		(1) 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進				
		いつまでも学べる環境整備				
事業名		学びを通じた人づくり			開始年度	平成18年度
事業内容		学んだことを生かして地域に貢献し、生涯にわたって輝き続ける人材の育成を目的に創年セミナーを開催する。また、個人が習得した技術・知識を広く活用してもらえるようボランティア講師を募り、登録された講師を必要としている市民、団体へ紹介する生涯学習アシスト事業を有効活用していく。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
創年セミナーの開催		12回（年）		9回 ※閉講式コロナ感染拡大防止策のため中止		B
アシスト事業講師利用回数		5回（年）		0回		
(達成度)						
アシスト事業については、コロナ禍で事業実施を見合わせていることから需要がなかった。						
(課題・改善点)						
アシスト事業登録指導者の活用については、庁内他課が所管する市民協働事業と連携し、指導者活動を更に周知するとともに新規登録の呼びかけを行い、事業を推進していく必要がある。						
また、新規登録者がいないため登録者の高齢化が進み、後継者等の育成に繋がらないことが大きな課題である。						

48	分 類	2 生涯学習の推進	基本目標	1・3	所 管	生涯学習課
重点項目		(1) 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進				
		いつまでも学べる環境整備				
事業名		「とみっこ大学」の実施と歴史・文化学習			開始年度	平成29年度
事業内容		様々な創作活動、理科・科学実験、環境学習などを中心とした「とみっこ大学」において、子どもの学ぶ力、生きる力を育む体験学習を実施する。 また、小学4年生以上を対象に岩崎久彌氏や岩崎家にゆかりのある旧岩崎邸庭園などの東京都内ある施設を訪れ、岩崎家が社会貢献を行ってきたことなどを学習する。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
とみっこ大学 参加児童の満足度		80%		0回		C
ふるさと富里再発見 参加児童の満足度		80%		0回		
(達成度)						
令和3年度「とみっこ大学」及び「ふるさと富里再発見」事業については、新型コロナウイルスの感染予防と活動制限のため中止とした。						
(課題・改善点)						
コロナ禍での安全安心を高め、魅力ある体験的な活動を企画し参加者を募る。						

49	分 類	2 生涯学習の推進	基本目標	1・3	所 管	生涯学習課
重点項目		(1) 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進				
		学びの成果を活かす環境づくり				
事業名		学びを通したまちづくり			開始年度	平成18年度
事業内容		学んだことを生かして地域に貢献し、生涯にわたって輝き続ける人材の育成を目的に創年セミナーを開催する。また、個人が習得した技術・知識を広く活用してもらえようボランティア講師として登録を促し、登録された講師を必要としている市民、団体へ紹介する。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
開催日数		16回		9回 ※閉講式コロナ感染拡大防止策のため中止		A
参加人数		40名		15名		
(達成度)						
コロナ禍での実施を考慮し、例年より回数及び募集人数を減らして実施。定員は、目標値並びに例年の定員数40名に対し半分の20名で応募を行った。						
受講生参加人数が15名であり、また、受講者同士の接触等を避けるため座学講座を中心としたが、修了証（3分の2以上の出席）対象者が11名であったことから、コロナ禍においても需要が高い事業である。						
例年、広報のみでの周知だったが今年度はホームページ及び公共施設等での募集案内の周知も行った。						
(課題・改善点)						
創年セミナーにおいて、参加者の多くが高齢者であるため、若年層～シニア世代の市民も参加できる日時及び講座内容を設定するとともに、リピーターが多いことから新規の受講者が増えるよう更に周知する必要がある。						
また、受講した講義の知識を活かしてアシスト事業の登録に繋げることが課題である。						

50	分 類	2 生涯学習の推進	基本目標	1・3	所 管	生涯学習課
重点項目		(2) 家庭・学校・地域の連携・協働による学びの充実				
		家庭教育の場の提供				
事業名		家庭教育の充実			開始年度	昭和39年度
事業内容		昨今の少子化や核家族化・都市化等社会情勢の変化により、親にとって子育ての負担感が増し、問題を一人で抱え込み、孤立化する親が見られることから、各市立幼稚園及び小・中学校に家庭教育学級を開設し、子育ての仲間づくりの場となる学習機会の提供に努める。また子どもたちの生活リズム向上を図るため、「早寝・早起き・朝ごはん」運動の周知を図る。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
市内家庭教育学級での 合同・単独学習会開催回数		24回		16回		A
早寝・早起き・朝ごはん 運動の周知回数		12回		12回		
(達成度)						
コロナ禍で開催回数を減らしたり見送り又は中止となったりした学級があり、開催回数は少ない。その一方で活動内容や運営を工夫して学習会を開催できた学級もある。 早寝・早起き・朝ごはん運動の周知については、家庭教育学級開級式及び市立幼・小・中保護者に啓発資料配布を文書にて知らせ希望者に配布した。						
(課題・改善点)						
コロナ禍での安全安心を高め参加者の不安の払拭に努める。また、魅力ある学習内容を提示し参加者を募る。						

51	分 類	2 生涯学習の推進	基本目標	1・3	所 管	生涯学習課
重点項目		(2) 家庭・学校・地域の連携・協働による学びの充実				
		地域社会と家庭教育の連携				
事業名		放課後子ども教室の推進			開始年度	平成20年度
事業内容		子どもたちが、地域社会の中で心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進するため、地域の方々との協働により、子どもたちの学習やスポーツ・文化活動への支援、地域との交流活動等を行う。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
放課後子ども教室 開催日数		15回		0回		B
放課後子ども教室 実施開催校数		3校		0校		
(達成度)						
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3校とも事業を中止としたが令和4年度の実施に向けて、地域コーディネーター会議及び実施校への説明及び協議を行い、令和4年度は、コロナウイルス感染対策を講じながら実施することとなった。						
また、1校モデル事業として4月から新規開設のため、実施校の校長及びボランティアスタッフに事業説明を行った。						
(課題・改善点)						
放課後子ども教室の運営にあたっては、参加児童及び運営委員が安全・安心に参加していただけるように、十分な感染対策を講じながら実施をする。						
また、参加の可否については、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえて、家庭内でしっかりと検討していただいてから申込していただくよう徹底する。						

52	分 類	2 生涯学習の推進	基本目標	1・3	所 管	生涯学習課
重点項目	(2) 家庭・学校・地域の連携・協働による学びの充実					
	地域社会と家庭教育の連携					
事業名	「とみっこ宣言」の周知・定着				開始年度	平成28年度
事業内容	学校、家庭、地域がそれぞれの責任と役割を自覚し、富里市の未来を担う子どもたちの育成を図るための「とみっこ宣言」を広く周知し、定着させて、学校、家庭、地域がさらに連携、協働して子育てに取り組めるように支援していく。					
指 標	令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価	
家庭教育学級学習会での周知回数	12回		12回		A	
子育て学習会での周知回数	12回		12回			
(達成度)						
家庭教育学級学習会での周知は開催学級で実施。また、市内家庭教育学級生向け市教委発行家庭教だよりで8回宣言文言を周知した。子育て学習会での周知は小学校就学時健康診断時・入園・入学説明会での子育て学習会で実施した。						
(課題・改善点)						
家庭教育学級学習会、講演会、子育て学習会にて宣言文を配布し説明を加えて周知に努めている。時間を確保して映像を使つてのプレゼンを行っていきたい。						

53	分 類	2 生涯学習の推進	基本目標	1・3	所 管	生涯学習課
重点項目		(2) 家庭・学校・地域の連携・協働による学びの充実				
		国際化社会に対応する子どもへの支援				
事業名		「とみさとザ・ワールド・キッズ」&「英語ふれあいDay」推進事業の実施			開始年度	平成17年度
事業内容		国際対話能力の涵養と、異文化に対する理解を深めることなどを目的として、平成17年度から「とみさとザ・ワールド・キッズ」を実施している。また、平成20年度から実施している「英語ふれあいDay」においては、日ごろの英語学習を発表する場を提供する。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
「とみさとザ・ワールド・キッズ」実施小学校区		4 小学校区		0 校		C
「英語ふれあいDay」関連行事においての参加者の満足度		85%		0%		
(達成度)						
令和3年度「とみさとザ・ワールド・キッズ」及び「英語ふれあいDay」関連行事については、生徒への新型コロナウイルス感染予防に配慮し、外国語推進事業実施協議会の決議により実施しない方針としている。						
(課題・改善点)						
令和4年度からは学校でコミュニティ・スクールを導入するため、学校運営協議会とどう連携するかが課題である。						

54	分 類	2 生涯学習の推進	基本目標	1・3	所 管	生涯学習課
重点項目		(3) 青少年の健全育成の推進				
		思いやりのある青少年の育成				
事業名		青少年相談員活動の推進			開始年度	昭和38年度
事業内容		青少年相談員連絡協議会の主催事業として、6月に「東京ウォーク」や1月に「少年少女綱引き・ドッジボール大会」を開催する。また、それぞれの小学校区では、体験活動や防犯パトロールを通じ青少年健全育成活動を行う。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
家族クイズラリー参加組数		20組		0組		C
綱引きドッジボール大会参加組数		10組		0組		
(達成度)						
連絡協議会が主催する事業については、新型コロナウイルスの生徒への感染予防に配慮し、クイズラリーや綱引きドッジボール大会は中止となったが、印旛地区を対象として行う「つどい大会」については、富里市の連絡協議会が運営主体となり準備・運営を行った。						
各小学校区単位で行う事業については学校との協議を踏まえ、例年の事業が実施できた地区、他の事業や学校美化事業に振替えた地区など工夫して事業を行った。						
(課題・改善点)						
新型コロナウイルスの感染拡大は体験を中心とした青少年相談員活動の多くが中止を余儀なくされたが、各地区で工夫をし地域の協力も得ながら、感染予防対策で忙しい学校を応援する事業なども実施してきた。						
今後は、令和4年度から導入されるコミュニティ・スクール制度との連携も意識しながら活動を行っていく必要がある。						

55	分 類	2 生涯学習の推進	基本目標	1・3	所 管	生涯学習課
重点項目		(4) 生涯学習の拠点となる社会教育施設の整備充実				
		公民館事業の充実				
事業名		サービスの適正化			開始年度	平成30年度
事業内容		これからの公民館利用の需要に対し、近隣の公民館を参考にしサービス向上を図る。また、官民連携手法等の活用を検討する。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
ホームページで 予約状況公開		12回		12回		A
(達成度)						
公民館へ電話での問い合わせや窓口に来なくても、施設空き状況の確認ができるように予約状況を公開した。						
(課題・改善点)						
利用者へのサービスを維持するため近隣の公民館運営方針を参考に実施できる手法を検討する。						

56	分 類	2 生涯学習の推進	基本目標	1・3	所 管	図書館
重点項目		(4) 生涯学習の拠点となる社会教育施設の整備充実				
		図書館資料の整備				
事業名		図書館資料等の充実			開始年度	平成14年度
事業内容		市民の学習活動等を適切に援助するため、新刊図書、雑誌、視聴覚資料などの図書館資料の整備に努める。自館に所蔵していない資料は、他の図書館との連携・協力により資料の整備に努め、有効かつ迅速なサービスと資料提供を行う。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
図書館資料の購入冊数		3,300冊		3,088冊		A
(達成度)						
購入内訳は、一般書2,510冊、児童書578冊であった。リクエストの多い小説や、絵本を中心に購入を進めた。目標値には至らなかったが、選別した購入をすることで、内容の充実に努めた。						
(課題・改善点)						
購入にあたっては、ニーズを把握し、要望に応じていくことで、利用の促進が図られることから、予算の範囲内において、リクエストに応えられるよう資料の購入に努める。						

57	分 類	2 生涯学習の推進	基本目標	1・3	所 管	図書館
重点項目		(4) 生涯学習の拠点となる社会教育施設の整備充実				
		図書館事業の充実				
事業名		子ども向け事業の充実			開始年度	平成14年度
事業内容		子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付ける上で欠くことができないものであり、全児童・生徒を対象に読書習慣や図書館の利用習慣につながるようブックトリップ事業を行う。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
ブックトリップ事業の達成者割合		40%		44.2%		A
(達成度)						
令和2年度実績43.3%に対して、令和3年度は0.9%増加した。小学生においては、前年度比1.4%増、中学生についても1.1%増となった。						
(課題・改善点)						
小学生、中学生ともに達成割合が増加した。今後も参加しやすい手法を工夫しながら、実施に努める。						

58	分 類	2 生涯学習の推進	基本目標	1・3	所 管	図書館
重点項目		(4) 生涯学習の拠点となる社会教育施設の整備充実				
		図書館事業の充実				
事業名		学校図書室等への支援			開始年度	平成16年度
事業内容		図書館が所蔵する団体貸出用資料を学校・幼稚園・こども園に長期に貸し出し、読書習慣の向上と学校等での読書活動の向上に寄与し、身近に本とふれあえる機会の創出の支援を行う。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
延貸出団体数		140団体		114団体		B
貸出冊数		7,000冊		5,857冊		
(達成 度)						
定期便については、従来通りの貸し出しを行う事ができたが、各学校からの申し込みにより貸し出す調べ学習用団体貸出の利用が少なかったことから目標値の達成には至らなかった。						
(課題・改善点)						
団体貸出用資料について充足している状況ではないことを踏まえ、学校等要望を参考に、積極的な図書資料の整備に努めていく他、定期便を増便して、利用の促進に繋げていく。						

59	分 類	2 生涯学習の推進	基本目標	1・3	所 管	図書館
重点項目		(4) 生涯学習の拠点となる社会教育施設の整備充実				
		図書館事業の充実				
事業名		ボランティアの育成・支援			開始年度	平成15年度
事業内容		ボランティア活動を通して、地域社会へ貢献しようとする住民と協働し、よりよい図書館づくりを実現するために、読み聞かせボランティア及び図書館ボランティアの育成・支援を行う。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
読み聞かせボランティア 延参加人数		100人		187人		A
図書館ボランティア 延参加人数		70人		101人		
(達成度)						
継続して協力いただけるボランティアは定着してきている。感染症の影響で、事業が中止となったものもあったが、目標値である参加人数は上回った。						
(課題・改善点)						
図書館活動への理解を深めてもらうためにも各ボランティア活動への参加を募ることが必要であることから、ホームページ、図書館だより等により継続し市民へ呼びかけていく。						

60	分 類	2 生涯学習の推進	基本目標	1・3	所 管	生涯学習課
重点項目		(4) 生涯学習の拠点となる社会教育施設の整備充実				
		社会教育施設の整備				
事業名		適正な維持管理			開始年度	平成24年度
事業内容		空調設備をはじめ、老朽化した設備の修繕を計画的に行い、安定した公民館運営を図る。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
工事件数		3 件		5 件		A
(達成度)						
公民館棟及び講堂棟の空調設備、照明設備、雨漏りの修繕を実施した。						
(課題・改善点)						
老朽化の影響で、修繕や更新が必要な設備が多発しており、中には緊急を要するものも含まれている。公民館施設利用者に支障のないよう、計画的に整備・更新の必要がある。						

61	分 類	2 生涯学習の推進	基本目標	1・3	所 管	図書館
重点項目		(4) 生涯学習の拠点となる社会教育施設の整備充実				
		社会教育施設の整備				
事業名		図書館施設・設備の更新、修繕			開始年度	平成15年度
事業内容		図書館の施設や空調設備、エレベーター、自動ドア、消防設備等を点検し、支障に対応する更新、修繕を実施する。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
図書館設備保守点検項目		11項目		11項目		A
(達成度)						
設備保守点検は計画通りに実施できた。修繕については、当初予定していた箇所に加え、早急な対応が求められる案件があったことにより全体では5件の修繕を実施した。						
(課題・改善点)						
修繕や更新が必要な設備が多数発生している。施設利用者が安全に利用できるよう、計画的に整備、更新を進めていく。						

62	分 類	3 文化・スポーツの振興	基本目標	1・4	所 管	生涯学習課
重点項目	(1) 文化の振興					
	文化の創造					
事業名	文化祭等の文化活動発表の場の充実				開始年度	昭和42年度
事業内容	自立した活動を行う文化団体や個人に対し、活動成果発表の場として市文化祭を開催する。					
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
来場者数		延べ1,500人		1,935人		A
(達成 度)						
新型コロナウイルス感染症拡大防止により、2年振りの開催であった。また、以前よりも規模を縮小しての開催であったが、参加者等のご協力により目標値を達成することができた。						
(課題・改善点)						
感染症への懸念から、参加を見送る団体があったりと、参加者数が以前よりも減少している。安心して参加していただけるよう、参加者と協力し、感染症対策の意識を統一する等、安心して参加できる文化祭の運営を目指す。						

63	分 類	3 文化・スポーツの振興	基本目標	1・4	所 管	生涯学習課
重点項目		(1) 文化の振興				
		文化の創造				
事業名		芸術作品鑑賞機会の創出			開始年度	平成20年度
事業内容		富里市内及び近隣市町に在住する芸術家の作品を展示し、これら芸術家の存在を広く市民に伝えるとともに、質の高い芸術作品の鑑賞機会を創出する。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
来場者数		延べ1,500人		1,687人		A
(達成度)						
市内外から多くの方に来場していただいた。作品を展示した芸術家と来場者の交流を通して作品への理解が深まり、身近な場所で質の高い芸術鑑賞の機会を創出することができた。						
(課題・改善点)						
コロナ渦ということもあり、引き続き感染対策と並行して開催していく必要がある。						

64	分 類	3 文化・スポーツの振興	基本目標	1・4	所 管	生涯学習課
重点項目		(1) 文化の振興				
		文化資源の保守				
事業名		無形民俗文化財継承事業への支援			開始年度	昭和55年度
事業内容		市指定文化財である「久能獅子舞」及び「中沢麦つき踊り」両保存会の継承活動事業に対し、経費の一部を補助して活動を支援する。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
活動回数		久能獅子舞（年2回） 中沢麦つき踊り(年1回)		0回		C
(達成 度)						
両団体共に、富里市の無形民俗文化財を継承するため、練習等熱心に行っている。今年度は感染症拡大防止のため、中止となったが、継承活動としてはその目的を達成することができた。						
(課題・改善点)						
コロナ渦ということもあり、引き続き感染対策と並行して開催していく必要がある。						

65	分 類	3 文化・スポーツの振興	基本目標	1・4	所 管	生涯学習課
重点項目		(1) 文化の振興				
		文化資源の保守				
事業名		有形文化財の保護			開始年度	—
事業内容		歴史的価値の高い未指定文化財を市指定文化財とし、文化財保護意識の高揚を図る。また、修復や劣化抑制措置を講じて有形文化財の保護・保存を実施する。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
指定文化財件数		1 件		未実施		B
文化財の修復		1 点		2 点		
(達成度)						
指定文化財については、現在価値の評価について、定まらないことから、早急な指定は行っていない。藤崎牧士資料の修復を実施した。						
(課題・改善点)						
富里市文化財保存活用地域計画の作成後に、計画的な指定を目指す。						

66	分 類	3 文化・スポーツの振興	基本目標	1・4	所 管	生涯学習課
重点項目		(1) 文化の振興				
		文化資源の保守				
事業名		埋蔵文化財の保護			開始年度	昭和49年度
事業内容		開発行為に伴って未発掘の可能性がある遺跡について、現状保存ができるように事業主と協議し、現状保存が困難な場合には発掘調査を実施して遺跡の記録保存に努める。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
文化財包蔵地確認件数		300件		463件		A
(達成度)						
目標値を上回った。また、新発見の遺跡や周知遺跡の範囲見直しを随時しながら、精度の高い埋蔵文化財包蔵地確認と迅速な対応を行っている。						
(課題・改善点)						
喫緊の課題として、埋蔵文化財の発掘調査を行える臨時職員の確保が難題となっている。						

67	分 類	3 文化・スポーツの振興	基本目標	1・4	所 管	生涯学習課
重点項目	(1) 文化の振興					
	文化資源の保守					
事業名	各種文化財の実態調査				開始年度	平成28年度
事業内容	平成27年度をもって民俗文化財調査が終了したことから、新たに古文書悉皆調査を開始し、文化財の総合的保存・活用を図るための方針を定める「文化財保存活用地域計画」を策定し、文化庁の認定に向けた調整を行う。					
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
古文書類の整理 （袋詰め）件数		49件		45件		A
富里市文化財 保存活用地域計画の策定		策定		策定		
(達成度)						
文化財の保存と活用の両立を目指した課題の抽出から、方針を定め、計画期間内に必要な措置の方向性を定めた。文化庁の認定も受け、シンポジウムを実施した。						
(課題・改善点)						
各種文化財の調査についても富里市文化財保存活用地域計画に定めた。計画的に実施できる体制づくりが課題となる。優先順位を定め、着実に実施する必要がある。						

68	分 類	3 文化・スポーツの振興	基本目標	1・4	所 管	生涯学習課
重点項目	(1) 文化の振興					
	文化資源の活用					
事業名	郷土資料の展示				開始年度	令和2年度
事業内容	県指定有形文化財「佐倉牧の牧土資料」を含む富里の歴史を学ぶ場の創設を図る。					
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
来室者数		3,000人		3,841人		A
(達成度)						
9月末の時点で目標値のおよそ70%を達成し、年度末には目標値を達成することができた。						
(課題・改善点)						
今後は、企画展示や展示物の入替により更に来室者数を増やすことを目標とする。						

69	分 類	3 文化・スポーツの振興	基本目標	1・4	所 管	生涯学習課
重点項目	(1) 文化の振興					
	文化資源の活用					
事業名	旧岩崎家末廣別邸の公開				開始年度	平成29年度
事業内容	国登録有形文化財である「旧岩崎家末廣別邸」を整備し、公開を図る。					
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
来園者数		1,500人		1,618人		A
社会資本整備総合交付金 対象事業支出額		78,000,000円		37,405,000円		
(達成度)						
来園者数については、時期によりムラがあるが、期中目標は達成できた。社会資本整備総合交付金事業については一部次年度に繰越した。						
(課題・改善点)						
別邸のPRを積極的に行い、来園者の増やすとともに、交付金を効果的に活用し効率的な整備を実施する。						

70	分 類	3 文化・スポーツの振興	基本目標	1・4	所 管	生涯学習課
重点項目	(1) 文化の振興					
	文化資源の活用					
事業名	文化財を活用した学習支援				開始年度	—
事業内容	市内で出土した様々な埋蔵文化財や寄贈された民具、収集した写真史料を活用した郷土の歴史教育支援を行う。					
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
歴史教育支援回数		10回		5回		C
(達成度)						
新型コロナウイルス感染症の影響により、依頼が中止になったりと実施件数が減少している。						
(課題・改善点)						
新型コロナウイルス感染症対策を実施し、少人数でも可能な体制を整える必要がある。						

71	分 類	3 文化・スポーツの振興	基本目標	1・4	所 管	生涯学習課
重点項目		(2) スポーツの振興				
		生涯スポーツ体制の整備				
事業名		スポーツ推進委員の資質向上を目的とした研修会等への参加			開始年度	昭和53年度
事業内容		スポーツ推進委員が研修会・講習会へ積極的に参加することにより、時代のニーズに即したニュースポーツの習得や適切な指導方法の研鑽を図る。また、市民からの要請に応じた指導やスポーツの普及に努める。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
研修会参加回数		5 回		1 回 ※他4回は中止（開催なし）		B
ニュースポーツ体験の実施回数		4 回・20人		2 回・5人 ※他2回は中止（開催なし）		
(達成 度)						
スポーツ推進委員関連の研修会・講習会については1回を除き、中止や書面開催となった。また、ニュースポーツ体験は年4回の実施を計画していたがコロナの影響により7月・12月の2回のみ実施となった。						
(課題・改善点)						
今後、コロナの感染者数減などにより研修会・講習会が再開された際には、より積極的な参加を促していく必要がある。						
また、ニュースポーツ体験については、例年行っていた行政パートナー回覧・市広報掲載に加え、市HPでの周知を実施し、参加者の増加に努める。						

72	分 類	3 文化・スポーツの振興	基本目標	1・4	所 管	生涯学習課
重点項目		(2) スポーツの振興				
		生涯スポーツ体制の整備				
事業名		総合型地域スポーツクラブの設立支援と育成			開始年度	平成22年度
事業内容		中学校区を単位とした地域総合型地域スポーツクラブの設立準備・運営の支援を行う。必要に応じ各中学校区でクラブ設立のメリットなどについて説明会を開催する。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
富里南桜クラブの会員数		40人		36人		B
富里南桜クラブの活動回数		40回		42回		
(達成 度)						
会員から選出された役員を中心に、毎週木曜日を活動日とし、片足立ちや踏み台昇降等の健康体操を実施した。						
(課題・改善点)						
会員の年齢層に偏りがある。入会のきっかけが「口コミ」が多いため、いかに幅広い世代に知ってもらえるかが課題である。						
今後、市ホームページや広報誌を通し、クラブの活動内容の紹介や会員募集等の支援を行うこととする。						

73	分 類	3 文化・スポーツの振興	基本目標	1・4	所 管	生涯学習課
重点項目		(2) スポーツの振興				
		生涯スポーツ体制の整備				
事業名		スポーツ・レクリエーション活動を中心とした生涯スポーツの普及			開始年度	昭和55年度
事業内容		水泳教室のほか、年齢や体力に応じた軽スポーツの楽しさや魅力を体験できるよう各種事業を開催し、いつでも、どこでも気軽にできるスポーツの普及に努める。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
水泳教室参加数		延べ50人		0回 ※中止		C
(達成度)						
新型コロナウイルス感染症の影響により学校体育におけるプールの授業が中止となったことに伴い、水泳教室については中止となった。						
(課題・改善点)						
水泳教室に限らず、スポーツをする機会創出のため、スポーツ庁が進めるスポーツに関する情報提供媒体【ここすぽ】を活用し、市内スポーツ団体の団員募集情報や活動内容を掲載できるよう、市HPや社会体育館内掲示板による周知を開始したが、今後も引き続き市民のスポーツに対する興味・関心の向上・競技人口の増加等に努める。						

74	分 類	3 文化・スポーツの振興	基本目標	1・4	所 管	生涯学習課
重点項目		(2) スポーツの振興				
		学校体育施設開放事業の促進				
事業名		学校体育施設の効果的利用の促進			開始年度	昭和50年度
事業内容		各種スポーツ団体からの利用申請を調整し、学校体育施設を含めた体育施設の効率的な利用を促進する。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
学校体育施設開放利用団体の登録数		延べ75団体		延べ72団体		B
学校体育施設の開放日数		200日		157日		
(達成度)						
新型コロナウイルス感染予防のため、8月1日まで事業を中止、また、緊急事態宣言等による利用中止期間があったため、日数は目標値より減少したが、利用に当たっては、問題なく利用できている。						
(課題・改善点)						
感染症対策などを徹底し、学校教育活動に支障をきたさぬよう、引き続き各学校及び団体と連携を図っていく。						

75	分 類	3 文化・スポーツの振興	基本目標	1・4	所 管	生涯学習課
重点項目		(2) スポーツの振興				
		健康・体力づくりとスポーツ活動の促進				
事業名		とみさとスポーツ健康フェスタの充実			開始年度	昭和39年度
事業内容		市民の誰もが気軽に参加でき、健康と体力づくりに対する理解と関心を深め、積極的にスポーツを実践するきっかけづくりの場として「とみさとスポーツ健康フェスタ」を実施する。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
参加者数		延べ200人		0回 ※中止		C
(達成度)						
新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、屋外競技・イベントの開催を計画し、10月10日(日)開催の予定で準備を進めたが、感染者の増加傾向により中止することとした。						
(課題・改善点)						
今回の状況下では中止判断となったが、次回開催に繋がると考えている。コロナ禍におけるスポーツイベント開催について引き続き検討を重ね、市民の健康と体力づくりのきっかけとなるようなイベントを開催できるよう努める。						

76	分 類	3 文化・スポーツの振興	基本目標	1・4	所 管	生涯学習課
重点項目	(2) スポーツの振興					
	健康・体力づくりとスポーツ活動の促進					
事業名	スポーツ団体支援による活動の活性化				開始年度	—
事業内容	市広報紙及びホームページ等を活用し、市スポーツ協会主催の大会や教室への市民参加を促進させる。また、全国大会等に出場する選手等への奨励費の交付や市内のスポーツ団体及び個人の優れた功績などを広く市民に紹介して、市民のスポーツに対する興味・関心を高め、競技人口の増加・技術力の向上を図る。					
指 標	令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価	
大会・教室の開催回数	60回		25回		B	
全国大会への出場者数	10件		4件			
(達成 度)						
新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、市スポーツ協会競技専門部の一部では、大会や教室を開催するなど明るい兆しが見えている。						
また、本市民の出場が期待された、千葉県民体育大会や国民体育大会が中止となる中、ハンドボールや硬式野球など全国大会への出場があったことは、本市に明るい話題をもたらした。						
(課題・改善点)						
コロナ禍におけるスポーツ活動は、感染症対策のもと以前のように戻りつつある。市スポーツ協会競技専門部とは情報の共有を行いながら、各種大会、教室が更に開催できるよう努める。						
また、各種競技全国大会の開催も平時の状況に戻りつつあり、出場時においては、奨励費の交付により競技活動を支援していく。						

77	分 類	3 文化・スポーツの振興	基本目標	1・4	所 管	生涯学習課
重点項目		(2) スポーツの振興				
		スポーツ施設の整備				
事業名		社会体育施設の整備充実			開始年度	平成31年度
事業内容		社会体育施設を良好な状態で貸し出すことで、利用者の安全を確保する。また、施設の利用率を上げることで明るく豊かな市民生活の向上を目指すことを目的として今後の改修計画を策定し、適切な取り組みを推進していく。				
指 標		令和3年度目標		令和3年度実績（実施率）		総合評価
利用団体数		2,500団体		3,384団体		A
利用者数		66,000人		69,155人		
(達成 度)						
屋内外全てのスポーツ施設において、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上での利用としているが、利用団体数、利用者数ともに回復傾向であり、目標値を達成した。 施設の経年劣化、老朽による不具合は、部分修繕で随時対応し維持管理に努めた。						
(課題・改善点)						
各スポーツ施設においては、経年劣化による損傷が現れていること、また、既存不適格事項を有する施設があることから、「市公共施設個別施設計画」により順次、大規模改修工事（修繕）を行う必要がある。						

富里市教育委員会の教育行政について（評価）

笹井 宏益（玉川大学）

1 全体をととしての評価

令和2年度以降現在に至るまで、新型コロナウイルス感染症の蔓延（以下「コロナ禍」という。）は収まる気配がなく、相変わらず教育活動に重大な影響を与えている。そうした状況のもとで、令和3年度の教育行政に対する評価については、コロナ禍による影響をどのようにとらえるかという点への考慮なくしては考えられない。このたびの評価は、令和3年度の教育行政が、このような状況に直面していることを踏まえた上で、個々の施策や取組みに対する評価を行ったものである。

令和4年3月末時点における「とみさと教育プラン」に基づく諸活動の達成割合については、自己点検・評価結果の全体の傾向として、「順調に達成した（A評価）」、「概ね順調に達成した（B評価）」、「達成できなかったが一定の成果を得た（C評価）」の合計の割合（「達成できず成果が乏しかった」（D評価）を除いた肯定的な評価割合の合計）が、全体の84.4%という高い数値を示しており、コロナ禍という特殊な状況の下であっても、大きな成果を上げたと高く評価することができる。

富里市の教育行政の特徴として挙げられることは、従前から行われている取組みが着実に成果を蓄積してきており、併せて、一つの施策が他分野の施策と有機的に関連付けられて企画実施されていることである。上記の傾向は、一つの施策が他分野にも影響を及ぼし、そうした施策が多数あることで、様々な分野において相乗的に良い成果が生まれていることを示唆するものである。ただ、コロナ禍の影響で「人が集まる」ことを旨とする事業の縮小や中止が一部見受けられる。こうしたことは、現状を考慮すると止むを得ないものとするが、そうした中でも、コロナ禍の影響をできるだけ少なくしようとする関係者の努力が見受けられることは、今後の発展につながるものとして大いに期待される。

また、個別の重点項目についても、学校関係者や教育委員会関係者による地道な努力の成果が、前年度に引き続き着実に現れてきていることは、高い評価に値する。特に、「学校教育の充実」に関しては、「順調に達成」又は「概ね順調に達成」が46項目中41項目という結果になっており、A評価又はB評価といった肯定的評価が90%近くを占めている。

他方で、「生涯学習の推進」に関しては、「順調に達成」又は「概ね順調に達成」が15項目中12項目、また「文化・スポーツの振興」に関しては、「順調に達成」又は「概ね順調」が16項目中12項目に達しているものの、「達成できなかったが一定の成果を得られたもの」が

それぞれ 3 項目及び 4 項目あることは、「人を集める」という事業形式の活動にコロナ禍の影響が顕著に出ているものと推察できる。

富里市教育委員会による教育行政は、全体的に見れば、令和 3 年度において極めて充実した活動を展開しており、高い評価に価するものである。

2 個別の事項についての評価

(1) 学校教育の充実

学力の向上については、千葉県標準学力検査の結果を踏まえ、各校が学力の状況を把握・分析し授業の改善につなげていたり、教務指導研修を実施したり、研究指定による指導方法の改善研究を行ったりするなどの取組みを進めていることは評価できる。ただ、市内の児童・生徒の平均得点が、県全体の平均をすべての教科で下回っていることは、基礎学力の底上げについてさらに努力する必要があることを示唆していよう。

「富里市きょうざん塾」や『とみの国』検定など、かねてから基礎学力の向上に対して積極的に取り組んでいることは評価できるものの、コロナ禍の影響を受けて「富里市きょうざん塾」については中止となったことはやむを得ないものとする。来年度以降の充実を期待するものである。

外国語教育の充実に向けて、従前から、小中学校に ALT や JTE を配置したり、外国語指導補助員会議を実施したり、また「英会話の日推進事業」を行ったりしていることは、地道な努力の表れと見ることができ、評価できる。令和 3 年度は、外国語指導補助員会議の実施回数が目標の 6 割にとどまっているが、コロナ禍の影響と考えられ、止むを得ないものとする。

多岐にわたる特別支援教育の取組み（特別支援教育専門員巡回支援事業、ライフサポートファイルの活用、個別指導補助員、発達相談の実施など）については、それぞれ目標値を達成しており、所定の成果を収めている。

不登校やいじめ等への対応に関して、家庭訪問や教育相談の件数は相応の数値を示しており、一定の成果を上げている。他方、長欠児童生徒の改善に関し、ふれあいセンター（適応指導教室）において不登校児の居場所づくりを行ったり学校復帰への取組みを進めたりする事業については、行政側の懸命の努力が認められるにもかかわらず、なかなか成果を出せていない。さらなる創意工夫を期待するものである。

郷土を愛する心を養い地域に根ざした人材の育成については、「ふるさと学習」の推進や地域教材の配布と活用といった施策が定着しており、特に「わたしたちの富里市」を副読本と

して活用した授業は市指導計画に沿ってきちんと実施されている。今後は、こうした取組の内容や成果を、市全体に広げていくことが望まれる。

中学生の職場体験学習を中核とする「地域と一体となったキャリア教育」や「ゆめ・仕事ぴったり体験（地域密着観察学習）」については、生徒たちの体験学習の充実に大きな貢献してきたものの、令和3年度は、コロナ禍の影響により事業所での学習（体験）ができなかった。その代替措置として、事業所の人を学校に招くなどの工夫をしたり、インターネットを活用した調べ学習をさせたりして、地域と一体となったキャリア教育を進めてきたことは、関係者の創意工夫や努力の成果として、高く評価できる。「学校と地域が一体となる」ことで、児童・生徒の成長・発達が期待されている現代において、こうした取組は極めて重要である。

ICTに係る教員の指導力向上に向けた取組や情報モラル教育の推進など、ICTに関する教育全般については、目標値と同じまたはそれ以上の成果を上げており、高く評価できる。コロナ禍やDX（デジタルトランスフォーメーション）が急速に進むこれからの日本社会において、児童・生徒が、ICTの持つメリットを最大限享受しつつICTの持つデメリットを最大限克服するためには現段階からの適切な指導が必要であり、将来を見据えた対応が望まれる。

食育は、児童・生徒が豊かに育ち、意義ある人生を構築する上での基本である。富里市では「富里市教育委員会食育推進プラン」を策定し、食育に関する指導を積極的に推進している。この点に関して、食育指導の回数や給食日より等の配布が適切に行われており、児童・生徒の食に対する意識は着実に高まっていると考えられ、さらなる継続・発展が望まれる。

開かれた学校づくりに関しては、学校評議員や設置校数や同会議の開催回数、学校評価の実施状況などを見ると、着実に進展していることがわかる。引き続きその充実が望まれる。

（２）生涯学習の推進

とみっこ大学は、「ふるさと学習」や「夏休み体験教室」などの既存事業を集約して新たに開設されたものである。この事業は、ものづくりや体験学習を組み入れたユニークな教育プログラムであり、開設当初から高い支持を得ている事業であることからわかるように、生涯学習事業として高い評価に値する内容である。令和3年度は、コロナ禍で多くの事業が未実施のままになったが、やむを得ないものとする。これらの事業は、参加した児童生徒への教育的な効果も高いと考えられるので、今後の継続・充実を期待するものである。

学びを通したまちづくり事業については、コロナ禍のため例年より回数や募集人数を減らして実施されており、そうした中で所定の成果を上げたことは、評価できる。

放課後子ども教室については、コロナ禍の影響により実施まで至らないケースが多かったものの、感染対策のもとで着実に準備が進められてきており、関係者の理解も進んでいる。来年度以降、その円滑な実施が期待される。

グローバル化対応の事業として、国際対話能力の涵養と異文化理解の促進を目的として、「とみさと・ザ・ワールド・キッズ」及び「英語ふれあい Day」が 10 年以上行われてきており、地域の特性を活かした教育事業として定着してきている。令和 3 年度は、コロナ禍で、いくつかのイベントなどが未実施のままになってしまったが、やむを得ないものとする。これらの事業は、参加した児童生徒への教育的な効果も高いと考えられるので、今後の継続・充実を期待するものである。

「読書活動は、子供が言葉を学び、感性を磨き、表現力や創造力を高め、人生をより深く生きる力を身に付ける上で欠くことができない」という趣旨からブックトリップ事業を行っていることは、高く評価できる。その達成者の割合も、当初の目標を超え数値を得たことは望ましい。引き続きその拡充を期待するものである。

また、図書館資料の充実や IT 化を進めるなど図書館行政を充実させていることも、意義深い。特に、読み聞かせボランティアなどの参加者数は、コロナ禍の下でも増えており、さらなる充実が期待される。

なお、図書館ボランティアの育成支援については、図書ボランティアの参加人数及び読み聞かせボランティアの参加人数は目標を下回っており、コロナ禍の影響は大きいと考えられるものの、今後はその回復にむけて努力してほしい。

（3）文化・スポーツの振興

文化・スポーツの振興策は、ほとんどの場合、文化事業やスポーツ教室といった「〇〇事業」という形態で進められてきており、コロナ禍の影響から逃れることができない。そうした中でも、コロナ禍の克服に向けて様々な取組みを進めていることがうかがわれる。特に、国登録有形文化財である「旧岩崎家末廣別邸」の整備・公開については、着実に進展しており、評価できる。また、社会体育施設の利用に関して、利用団体数や利用者数は増加していることも、好ましい事態である。

文化・スポーツの振興にとっては、コロナ禍という困難な状況であるが、関係する施設、団体、行政関係者の活躍に期待するものである。